

## 第11節 TSTA(教授;ティーチング・スーパービジョン)試験

### 11.1 はじめに

TEWに出席し、TSTAトレーニング契約にサインし、それを承認されたら、候補者はTSTAになるためのさらなるトレーニングに入る。このトレーニング期間、PTSTAは教えたりスーパービジョンをしたりすることができるが、それはTSTAのスーパービジョンのもとでなされる。このトレーニング期間の最後に、国際的試験委員会の前で口頭試験を受ける。PTSTAは、TAの組織構造の文脈の範囲内で、理論、倫理、教えることスーパービジョンすることにおける彼や彼女の有能さを、示すように促される。それぞれのケースにおいて、候補者がすでに(CTAとしての)資格を有し、TSTAになりたいと望んでいるその応用分野において、TSTAの資格は与えられる。

候補者によっては、ティーチング(TTA)もしくはスーパービジョン(STA)のどちらか一方のみで資格を与えられたいと望むものもあるかもしれないし、資格の両方は有していないスーパーバイザーや教師と契約をしているものもあるだろう。この節では、用語の不必要な重複を避けるために、文脈的に問題がなければ、PTSTAはPTTAとPSTAを含む。TSTAにはTTAとSTAを含む。

### 11.2 TTA(教授;ティーチング),STA(教授;スーパービジョン)、TSTA(教授;ティーチング・スーパービジョン)試験の受験資格

#### 11.2.1. はじめに

すべての候補者は、

- T&CC,EATA,WPATAとの最新のトレーニング契約を結んでいること。
- CTAとして、BOC,COC,WPATAのいずれかによって認定されていること。
- トレーニング契約期間中に、異なる試験会場で5回以上試験官をしていること。
- 3通の推薦書を提出していること
  - 一通は、現在のスーパーバイザーからのものであること。
  - 2通は、候補者のワークをスーパービジョンしたことのある、別のTSTAからのものであること。
- そのスーパーバイザーは、この候補者とのTSTAトレーニング期間中に、3つのTSTA試験の開催地において試験官をした経験がなければならない。

#### 11.2.2. TTA(ティーチング transactional analyst)の受験資格

TTAの受験資格として、候補者は11.2.1による一連の基準はすべて満たしていなければならない。推薦書は、候補者のティーチングに関して触れているものでなければならない。それに加えて、候補者は、

- 倫理、ティーチングとトレーニングのすべての領域において、T&CC、EATA、WPATAによって承認されたTEWを、申し分なく完全に修了していること。
- 300時間以上のTAティーチング経験、次のものを必ず含んでいなければならない。
  - ティーチングのうち45時間は、EATA、ITAA、WPATAのメンバーであるTSTAにスーパービジョンを受けており、そのうちの20時間は、“ライブ”でなければならない。
  - 最初のTA101に関する、“ライブ”スーパービジョンを受け、その質を承認されていること。(12.4.2を参照のこと)
  - (遠隔地などのように)ライブスーパービジョンが困難な場合には、スーパーバイザーの自由裁量により、この割合は、テープやビデオ等(注:音声や映像の記録媒体)を介したり、違う分野のスーパーバイザーから受けるという形で、実施されてもよい。

- この TA101 のスーパービジョンは、必要とされるスーパービジョン時間に含めない。
- ・ 継続した専門職としての教育や成長の時間が 100 時間に達していること。
- ・ 学会や専門的な会議において、プレゼンテーションを 12 時間以上していること。そのうち 6 時間は、全国的もしくは世界的な会議でなければならない。

### 11.2.3. STA(トレーニング transactional analyst)の受験資格

STA の受験資格として、候補者は 11.2.1 による一連の基準はすべて満たしていなければならない。推薦書は、候補者のスーパービジョンに関して触れているものでなければならない。それに加えて、候補者は、

- ・ 倫理、ティーチングとトレーニングのすべての領域において、T&CC、EATA、WPATA によって承認された TEW を、申し分なく完全に修了していること。
- ・ 500 時間以上の個人もしくはグループスーパービジョンの経験をしていること。その中には、次のものを必ず含んでいなければならない。
  - 少なくとも 2 人以上のスーパーバイザーのそれぞれに対して、最低 40 時間のスーパービジョン。
  - スーパービジョンのうち 50 時間は、TSTA によりスーパービジョンを受けており、少なくともその半分は“ライブ”でなければならない。テープやビデオ等によるスーパービジョンも、“ライブ”と見なす
- ・ 専門職としての教育と成長の時間が、100 時間に達していること。

### 11.2.4. TSTA(ティーチング・スーパービジョン transactional analyst)の受験資格

TSTA の受験資格として、候補者は 11.2.1, 11.2.2, 11.2.3.による一連の基準はすべて満たしていなければならない。推薦書は、候補者のスーパービジョンとティーチングの両方に関して触れているものでなければならない。いずれの推薦書にも、この両方ともに関する推薦を含んでいる必要はないが、両方の分野に関して(推薦書全体で)専門知識を有するとして、承認されていなければならない。

## 11.3 スーパービジョン

### 11.3.1 TSTA 試験に向けて認定されたスーパービジョン

PTSTA に不可欠なスーパービジョンの少なくとも 50%は、候補者が選んだ専門分野の TSTA によるものでなければならない。

スーパービジョンとは、トレーニングに関するディスカッションやスーパーバイザーとのスーパービジョンや、“ライブスーパービジョン”などである。たとえば、スーパーバイザーはトレーニング過程に同席し、その後スーパービジョンをしてもよいし、もしくは候補者がトレーニンググループやスーパービジョンの別のメンバーのスーパービジョンをしているのを、スーパービジョンしてもよい。

時にはライブスーパービジョンを設定することが非常に困難なことがある。その際には、候補者のスーパーバイザーとの間に合意が成立すれば、ライブスーパービジョンの必要時間のうち何時間かは次のものを使用してなされることができる。

- ・ スーパービジョンのスーパービジョンのために記録された、ウェブカムもしくはオーディオかビデオ記録
- ・ ティーチングのスーパービジョンのために記録された、ウェブカムもしくはオーディオかビデオ記録

### 11.3.2 スーパービジョン時間

TSTA が指導するスーパービジョングループにおいて、スーパーバイザーの面前で、候補者がスーパービジョ

ンのための積極的なワークを提示したならば、時間に関わりなく、一時間のスーパービジョンとして加算することができる。トレーニーが、他のトレーニーのスーパービジョンの間、同席していた場合は、スーパービジョン時間としては加算できない。これらの時間は、専門職としての学習と成長のための時間として加算されるだろう。

しかし、2人か3人のPTSTAが、グループとして同じ時間一緒に、スーパービジョンを受けている場で、それぞれのPTSTAがスーパービジョンやトレーニングに関するワークを提示したならば、それぞれのPTSTAがスーパーバイザーとのスーパービジョンにかかった時間すべてを、(他の人の提示の時間も含めて)スーパービジョン時間として加算してもよい。

#### 11.4 PTSTAとしてのトレーニングとスーパービジョンの記録

そのトレーニングに期間を通して、PTSTAとしてすべてのティーチングやスーパービジョン活動や受けたスーパービジョンに関する正確な記録を保存する責任がある。候補者のスーパーバイザーは、周期的にこの記録を閲覧しておかなければならず、この記録は、試験では提出されなければならない。スーパーバイザーの職務の一つとして、この記録の正確さを確実にすることがある。この節に関連した申請書類のコピーはすべて、11節の最後に示されている。

#### 11.5 受験申し込み

試験日の6ヶ月前までに、候補者は受験料を納めるべきである。自分の所属している組織に情報を求め、手順や金額を確認し、次のものをT&CCに送付する。

- ・ 試験申し込み書類を使用した、TSTAやTTAもしくはSTA試験を受験する意思があることの届け出
- ・ 完全な(すべて記入済みの)スーパーバイザーの証明書(節の最後を参照のこと)

#### 11.6 受験申し込み取り下げ

もしも、登録後にPTSTAが、受験申し込みを取り下げの場合は、試験日の遅くとも丁度2ヶ月前に、試験統括者に届け出ることによって、受験料が別の試験の受験料として充当することができる。もしも、2ヶ月前以降に届け出た場合は、返金を求めたり受験料を他の回に充当することはできない。

#### 11.7 試験

##### 11.7.1 はじめに

候補者は口頭試験に、以下のものを4枚ずつコピーして持参しなければならない。

- ・ PTSTAとしてのアニュアルサマリーレポート(年度ごとの報告書)
- ・ 彼または彼女のスーパーバイザーによるアニュアルサマリーレポート
- ・ 彼または彼女の教育、トレーニングや実践を、整理して示す業績報告書
- ・ 3通の推薦書(11.2.2と11.2.4を参照のこと)
- ・ スーパーバイザーからの、TSTA試験の所定の形式による保証書
- ・ 受験料を支払ったことを示す証拠
- ・ ティーチング部門のための文脈シート(必要に応じて)
- ・ 試験を記録する機器。これは、試験の結果に抗して申し立てをするような成り行きになったときに、きわめて重要である。(申し立てに関し、9.10を参照のこと)。しかし、これは必須な必需品というわけではないが、記録がなければ、申し立てはなしえない。

TSTA 試験の間、候補者は彼や彼女が、次のようであることを示すように求められる、

- ・ TA 理論を良く理解していること、そして
  - それを批判的に議論することができる
  - それを他のモデルと比べたり、対照したりできる
  - それを十分に教示できる
- ・ CTA や PTSTA を適切にスーパービジョンすることができる。
- ・ 他の人々とのコンタクトにおいて、倫理的で責任感があり、信頼に足る。
- ・ 自国の TA 組織と国際的な TA 組織の役割に関してよく理解している。

この TSTA 試験は、3 つの部門から成り立っている：

- A.理論、組織と倫理
- B.ティーチング
- C.スーパービジョン

それぞれの部分は、約 1 時間行われる(通訳を介する場合は、より長くなる)。

採点と報告のための時間も含めて、理論の部門は、約 1 時間 15 分かかる。ティーチングとスーパービジョンの試験は、約 2 時間かかる。通訳がいる場合は、この時間は 50 パーセント増しになるだろう。

候補者は、試験の理論、組織と倫理の部門を合格しなければならず、ティーチングとスーパービジョンいずれか、もしくは両方の部門に進むことができるのは、その後である。TTA の候補者は、B 部門に進むまえに、A 部門を合格していなければならない。C 部門は実施されない。STA の候補者は、A 部門を合格しなければならない。それから、B 部門は省いて、C 部門の試験が実施される。TSTA の候補者は、A 部門を合格しなければならない。それから B 部門と C 部門の試験が実施される。

### 11.7.2 試験前

- ・ TSTA 候補者の説明会は、通常試験の前日に開催される。
- ・ 試験統括者は、質問に答え、試験過程について説明し、採点表に関して説明し、候補者に、彼らの権利について告げる。
- ・ 適任とみなされ訓練をされた 4 人の試験官が、試験統括者によって選任されて試験官団を構成し、その中の一人が試験官団の委員長に選ばれる。例外的に、必要であれば 3 人からなる試験官団もありうる。
- ・ 試験官は、一日に 3 回までしか試験官をすることができない。

### 11.7.3 試験

#### A. 理論、組織、倫理部門

試験官団は、一度に一人の候補者を試験する。

- ・ 候補者が提出した書類を審査する、
- ・ 候補者のトレーニングプログラムや実践に関連した哲学について尋ねる、
- ・ 高度な TA 概念に関して考える能力や、TA 理論と他のモデルやアプローチを比較したり、統合したりする能力を、明らかにするための質問をする、
- ・ その国および国際的な TA 組織に関する、候補者の知識を評価する、
- ・ 倫理的な(TA 専門家としての道義にかなった)専門家であるということに関する候補者の感覚を評価する、

- ・実践とTAの発展への首尾一貫したアプローチに、さまざまな側面を統合していく、候補者の能力を評価する、
- ・試験官団の質問が完了したら、試験官団採点について討議を始めてよい。
- ・試験官団が採点を始めるこの時まで、候補者はいつでもプロセスファシリテーターを呼ぶことができる。この時、試験官団の委員長は、今がプロセスファシリテーターを呼べる最後の機会であるということ、候補者に念押しをすること。また、候補者に採点の間、部屋に残るか退室するかを選択をさせること。この時点以降、試験官団のメンバーだけがプロセスファシリテーターを呼ぶことができる。
- ・TSTA 試験採点シートを使って、候補者を評価すること。

## B.ティーチング部門

ティーチング部門は、試験のために特別に準備された人工的な状況よりも、日常的なTAの教育や訓練の標準的な現実に行き届いた状況を提供するように意図されている。それによって、候補者は、次のような機会を得る。

- ・自分の教育やトレーニングのスタイルや哲学を、実演する。
- ・自分の教育方法の理論的根拠を示す。

### B.1 試験までにすること

候補者は次の準備をすること

- ・TA理論と実践に明確に関連し、かつそこから選んだトピックについての、20分間のティーチングデモンストレーション。
  - ・次の情報が記載されたA4用紙一枚
    - ティーチングのこの部分は、トレーニングプログラムのどこに当てはまるのか、ここで示された部分は特定のティーチング日程のどこに当てはまるのか。
    - 参加者はだれか。
    - 参加者はその人のトレーニングにおいて、どんなレベルやステージにいるのか。
- 試験官団は、試験直前に集まり、この情報用紙に目を通しておくこと。

### B.2. 試験中

- ・試験団委員長は、候補者を試験会場に招き入れ、歓迎する。
- ・ボランティア聴衆が試験のスタートの際に入室し、試験の間中か、もしくは第2のティーチングの終了までいることができる。これは、候補者が決める。
- ・候補者と試験官団と聴衆が、先に進む準備が整ったら、候補者と試験官の会話が始まる。その中で、候補者は、自身について、試験官団に手短かに語ることを求められる。
  - トレーニング哲学、すなわち専門家としての倫理的価値や、トレーニングプログラムの構造やトレーニング方法の選択の根拠となった信念。
  - 好みのトレーニングの理論的モデル、それは、TAから引用されたものでも他の理論領域からのものでもよい。
  - トレーニングプログラム全体と、試験におけるティーチングのデモンストレーションとの、両方において、ティーチングモデルをどう選択したか。
- ・この最初の議論は、5分から10分の間続くだろうが、試験官団委員長の自由裁量によって延長してもよい。
- ・この最初の議論は、実際に行われたデモンストレーションを評価するための最初の準拠枠を、試験官が探す。すなわち、候補者が言ったりしなかったこと、ティーチングの中で候補者が実際に何をしていたのか

を評価しようとする。

- それから、候補者は聴衆と試験官団に、20 分間のティーチングデモンストレーションを提示しなければならない。
- ティーチングデモンストレーションは、候補者のトレーニング実践における実際に行っているセッションを代表するものである必要があり、また候補者が理論的モデルもしくは学習のモデルとして示したものと一貫性のあるものである必要がある。
- 標準的には、デモンストレーションは、形式ばった講義よりも、やりとりのある方法を含むものである。たとえば、質疑応答や、ブレインストーミング、短い体験的なエクササイズなど。
- デモンストレーションのために選択した方法は、候補者の教師としての動きをみる機会がふんだんに含まれているようなものであること。20 分間の短い時間で、候補者のティーチングの能力を十分に示すような教授方法を選ぶことは、候補者の責任であり、能力の一部である。
- 20 分のティーチングデモンストレーションの後、試験官団以外の聴衆が、先ほど教授したトピックに関連した質問や、他の TA の側面との関連性などについて質問してもよい時間が 10 分ほどできるだろう。聴衆者が質問をする際には、何か特定のレベルにあるトレイニーを演じるのではなく、可能な限り自分自身であることが求められる。候補者は、ティーチングセッションが全体として 30 分続いているという形になるように、質問をティーチングの中に統合することを選択すると良いだろう。
- 10 分間の質問タイムが完了すると、試験官団が、候補者に質問をすることもある。しかし、TA101 ティーチングの後まで保留にすることもある。これらの質問は、候補者の理論、哲学、ティーチングやトレーニング活動の方法論などに関するものであろう。それには、候補者のトレーニングプログラムの組織や、候補者に TTA に認定されるだけの準備があるかを評価することに関連すると、試験官団が見なしたものはどんなことでも含まれる。
- この質問時間の中に、試験官団は、候補者の最終的な評価をつける際に特別重要であると見なしているような質問であれば、ティーチングの内容に関する質問をすることは自由である。しかし、試験官委員長は、この時間の試験官団の質問が、主としてティーチングの哲学や論的根拠や方法論にきちんと焦点があったものとなるようにすべきである。

試験官委員長は、TA101 のトピックがそれぞれ紙片にかかれたカードが入った容れ物を、候補者に示す(12 節を参照のこと)。候補者は、無作為に一枚を選択する。候補者は、準備をするために 2 分間を与えられ、その後、聴衆にそのトピックを教えることになる。ティーチングそのものは、5 分間程度で、(トレイニー役の)聴衆から、5 分間の質問を受ける。この質問は、ティーチングと結びついたものでなくてもかまわない。

- これが終わると、試験官団はさらなる質問をしてもよい。たとえば、ティーチング方法などに関連したものなど、である。
- 候補者は、試験官団の採点の準備が整う時まで、いつでもプロセスファシリテーターを呼ぶことができる。このときに、試験官委員長は、候補者にたいしてプロセスファシリテーターを呼ぶことができる最後の機会であることを念押し、部屋に残るか退室するかを選択肢を与える。
- 試験官団は、TTA 試験採点シートを使って候補者を評価する。

### C. スーパービジョン部門

スーパービジョン試験は実践家のスーパービジョンと、実践家をスーパービジョンするスーパーバイザーへのスーパービジョンの両方を例示できるように意図されている。候補者に期待されることは、スーパービジョンの論点を認識し、それを満たすための特定の契約を結ぶ能力を示すと同時に、スーパービジョンに関する明確な哲

学を持っていること、スーパービジョンに関するモデルを適切な範囲で使うこと、である。

### C.1 スーパービジョン部門

- ・試験官委員長は、候補者を試験会場に招き入れ、歓迎する。
- ・候補者、試験官団、スーパーバイザーが準備が整ったら、候補者と試験官団との会話で試験が始まり、そこで候補者は、自分のスーパービジョンスタイルや、自らのスーパービジョンの指標としている専門家としての価値や倫理的価値について、簡単に説明するように求められる。
- ・候補者は、一人最大 20 分(通訳のいる場合は延長)で二人のトレーニーのスーパービジョンをすることを求められる。このスーパーバイザーは、
  - 教育、組織、カウンセリング、心理療法のトレーニーで、そのいずれであっても、候補者の専門分野に関わりなく適切である。テープを持ってきているかもしれない。
  - 候補者の専門分野と同一の教育、組織、カウンセリング、心理療法分野のトレーニーであり、テープを持ち込んでいる場合もあり、教育・組織・カウンセリング・心理療法のいずれにせよ、候補者と専門分野が同一のトレーニーで、テープを持参してもよい。
  - OPTSTA で、スーパーバイザーとして又はトレーナーとして抱えている問題を提示するつもりのある人。
- ・BOC は、一人目のスーパービジョンの間、バイアスがかかるのを避けるために、二人目のスーパーバイザーは入室しないことを勧めている。スーパーバイザーは、試験が全部終わるまで残るか、それぞれのスーパービジョンの終わりまでで退室することもある。これは、それぞれの候補者が決定すべきである。
- ・試験官団が望めば、スーパービジョンのいくつかの局面について、候補者に質問をすることができる。それは、二つのスーパービジョンの間でも、2 番目のスーパービジョンの後でも可能である。採点は、これら 2 つのスーパービジョンの間に示されることはない。しかし、有能さが示されていないことや、有能さを二番目のスーパービジョンで示すべきであるということ considering、フィードバックが提供されることもあるかもしれない。
- ・試験官の質問が完了したら、試験官は採点の議論をする。
- ・候補者は、試験官が採点の準備が整うその瞬間まで、いつでもプロセスファシリテーターを呼ぶことができる。このとき、試験官委員長は、プロセスファシリテーターを呼ぶことができる最後の機会であると、候補者に念を押し、部屋に残るか退室するかを選択するように求める。この時点から、合格か合格見送りを投票する瞬間まで、試験官団のみが、プロセスファシリテーターを呼ぶことができる。
- ・候補者は、STA 採点表を使って採点される。

## 11.8 採点手順

採点や投票の手順は、TSTA の 3 部門いずれも同じである。

- ・試験官団が、採点や投票に十分な情報を得たと満足したら、採点手順が始まる。
  - 委員長は、候補者にプロセスファシリテーターを呼ぶ最後の機会であり、この後は、試験官のみがプロセスファシリテーターを呼べることを伝える。
  - それぞれの試験官は、各自で採点をする。
  - 試験官(メンバーのうちだれか)が望むのであれば、討議をしてもよい。
  - 試験官(それぞれ)は採点を変更しても構わない
  - 試験官(それぞれ)は、採点を読み上げる。
  - 委員長は、自分の採点表に、他の試験官の採点を記入して、集計し分析する。

- 委員長は、試験官たちにプロセスファシリテーターを呼ぶ最後の機会であるということを告げる。
- 試験官たちは、合格か合格見送りを投票する。
- ・採点は、ガイドとして活用されるべきで、試験官たちの判断が、最終結論となる。しかし、候補者が合格見送りとなるのは、次のような時である。
  - 二人かそれ以上の試験官が合格見送りに投票した場合
  - または、総合得点がいずれかのセクションで 60% 以下の場合。つまり、
    - A.理論、組織、倫理 15 ポイント以下
    - B.ティーチング 24 ポイント以下
    - C.スーパービジョン 48 ポイント以下
  - または、いずれかの採点基準において、すべての試験官が 1 ポイントの採点をした場合。
- ・上記のいずれにも当てはまらず、3 人かそれ以上の試験官が合格に投票しているならば(3 人の試験官団の場合は 2 人)、その候補者は合格である。
  - 候補者は、試験の後、すみやかに試験統括者から渡された試験官評価票に、試験官に関するコメントを書くように求められる。

### 11.9 TSTA 試験における試験官向けガイドライン

TSTA 試験官は、次のようであるべきである、

- ・試験のプロセスが始まる前に、候補者の提出書類を読み、試験開始時には、候補者と共にそのファイルに目を通す。この過程では、何か肯定的にストロークするところを探すこと、候補者とよく知り合うための時間として使うこと。
- ・質問は一度に一つずつすること。
- ・必要な情報を明瞭に尋ねること。その際、可能な限り開かれた質問(オープンクエスチョン)ですること。たとえば、
  - TA トレーニングにはどのようにして関わるようになったのですか？
  - なぜずっと関心があるのでしょうか？
  - 今ある TA 理論への、Berne のオリジナルな貢献は何だと思えますか？
  - TA 教師、またはスーパーバイザーとして、あなたはどのような規模のトレーニンググループを持っていますか？
  - それはなぜですか？
  - 成人に教授する際の理論として、TA の他にあなたは何を知っていますか？
  - それをトレーニングの中でどのように使いますか？
  - トレーニーとのスーパービジョンの時間中に、どの種類の診断手順を使いますか？
  - もしもあなたが ITAA の次期会長になったら、もしくは自国 TA 組織の長になったら、あなたがその組織のためにしようとする、重要なゴールはなんですか？
- ・すべての質問の後に、候補者の反応がどのように評価されつつあるかを、候補者に示すようなフィードバックが与えられる。もしも候補者が、質問に不完全に、もしくは不正確に答えたとしたら、試験官団は、自分たちが期待していた回答がなんだったのかを伝えなければならない。
- ・候補者に、その強さや有能さを見いだすこと、そして、質問によって明らかにされた起こりうる問題のある分野について、議論をするか、もしくは議論をすること。

- ・「それを私に説明してくれますか」もしくは「それについてももっと話してくれますか」などのような、肯定的な質問をすること。そして、「私は、それに関して 0 心配している」というような、不特定の否定的な言い回しを避けること。
- ・候補者が明らかに知らないと分かるような領域に質問を重ねないこと。候補者は、どんな時でも「私は知りません」ということが OK なのだ。
- ・候補者の準拠枠に喜んで耳を傾け、理解しようとする。TA には多くの使われかたがある。候補者のやり方は試験官のやり方とは違うかもしれないが、重要なことは、候補者は根底にある考え方を説明することも立証することも可能である、ということだ。
- ・試験の中で行われるスーパービジョン部門において、スーパーバイザーに対しても候補者に対しても、教えたりスーパーバイズしたりしないこと。かれらは、そのようなことは契約していないのである
- ・自分たちが何をしようとしているのかに気がつくようにするなど、フィードバックやサポートをしながら、他の試験官たちに関心を払うこと。

#### 試験過程の時間調整

- ・試験のそれぞれの部門は、およそ 60 分間で行われるべきである(スーパービジョンは、長めになるかもしれない)。試験の終了に向かうにつれて、試験官団のメンバーは、候補者を採点することや、試験官の間でより進んだステップの議論をするために必要な情報がすべて集まったかどうかを、振り返るべきである。
- ・もしも、45 分を過ぎても、試験の終わりがまだ見えない場合には、試験官団は試験の過程を振り返るべきであり、プロセスファシリテーターを呼ぶことを考えるべきである。
- ・試験が、通訳を介して行われている場合には、ここで示した時間をすべて延長することが認められる。つまり、通訳を介した試験では、全体の時間が 90 分前後になるだろう。(9.8 の、通訳を介した試験についてガイドラインを参照のこと)。

### 11.10 TSTA 試験のスーパービジョン部におけるスーパーバイザー向けのガイドライン

T&CC は、このプロセスに参加することに関心を持ち、参加して下さるスーパーバイザー達に、謝意を表したい。この重要な任務を彼らが果たす上で助けとなるよう、ここにガイドラインを示すことにする。

- ・主として焦点があてられるのは試験であり、候補者であることを、スーパーバイザーは承知しておかなければならない。彼らは、何かを学ぶことや、よく知らないスーパーバイザーから無料のスーパービジョンを受けるために、この機会を使うべきである。
- ・解決したいと思っている一つの問題を持ってくるべきである。別の言葉で言うなら、ロールプレイではなく、現実の疑問ということである。
- ・試験の中のスーパービジョンは、一枠 20 分という時間制限があることを、承知しておくこと。もちろん、スーパービジョンにおいて、この時間制限の問題をどう扱うことができるかを示すことは、候補者の仕事である。しかし、スーパーバイザーが最大の利益を得るためには、かれらが、20 分間で現実として扱えそうだと思う問題を、持参するべきである。
- ・同様に、スーパービジョンで明確な契約を結び、それが完遂されるように導くのは、候補者の仕事であり、スーパーバイザーの仕事ではない。しかし、スーパーバイザー自身の利益のために、彼らがスーパービジョンで得たいものが何かをあらかじめ考えておくことを望んでも、差し支えない。
- ・候補者は、ある種のストレスフルな状況にいるとはいえ、熟練のスーパーバイザーであることを、スーパーバイザーは憶えておくべきであろう。したがって、スーパーバイザーは、たとえば候補者を助けようとするべき

ではなく、本気で臨み、他のスーパービジョンセッションと同じように、試験として行われるスーパービジョンを扱うべきである。

- CTA やCTAトレイニーであるスーパーバイザーは、スーパーバイザーの専門とする応用分野における、自分の実践からスーパービジョンで扱う問題を持参すべきである。試験のこの部分の目的は、実践家をスーパーバイズする候補者の能力を評価することである。
- PTSTA であるスーパーバイザーは、自身のトレーニングやスーパービジョンに関連した問題を持参すべきである。すなわち候補者の専門とする応用分野の PTSAT としての実践である。試験のこの部分の目的は、トレーナーやスーパーバイザーをスーパーバイズする候補者の能力を評価することである。
- 試験が通訳を介して行われる場合には、スーパーバイザーは、通訳者に通訳のための時間がとれるようにくれぐれも心してほしい。特に、候補者と同じ言語で会話をする時間とか、試験官団の中に異なる言語を話す人がいる場合などは、そうである。通訳のために、過程がかなりゆっくりになる。これは、スーパーバイザーの思考過程や自発性の流れに余分な時間が差し挟まれることになる可能性がある。しかし、同時に、思考や統合のための特別な時間が提供されることでもある。
- 持ち込まれたケースは、試験の間のスーパービジョンのプロセスや内容と同様に、スーパーバイザーやその場にいた他のだれのことも、他のスーパービジョンセッションにおいてそうであるように、厳密な守秘義務をもって扱われなければならない。

#### 11.11 試験委員長、プロセスファシリテーター、オブザーバー、通訳の任務

9 節を参照のこと。

#### 11.12 試験の一部合格の場合

もしも、候補者が、試験の最初の部門(理論、組織と倫理)を合格し、他の二つの部門で、合格見送りとされた場合は、翌年の12月31日までに、少なくとももう一つの部門を合格しなければならない。この期限を過ぎた場合には、候補者が再度試験を受ける際、最初の部門からの試験を繰り返す必要がある。最初の部門と、他の二つの部門の内の一つを合格している候補者は、その後いつでも、3つめの部門の試験を受けることができる。

#### 11.13 申し立て

ハンドブックの9節と同じルールが適用される。

#### 11.14 関係文書

- List of 101 Topics for Teaching Examination (12.11.1)
- PTSTA Annual Summary Report (12.11.2)
- PTSTA Supervisor's Annual Summary Report (12.11.3)
- T/STA Examination Application Form (12.11.4)
- Acknowledgement of Items Received for TSTA Examination (12.11.5)
- Supervisor's Certification TSTA Examination (12.11.6)
- TSTA Scoring Sheet Theory, Organisation and Ethics Segment (12.11.7)
- TSTA Scoring Sheet Teaching Segment (12.11.8)
- TSTA Scoring Sheet Supervision Segment (12.11.9)

TSTA Contract (12.6.2)

Examiners Evaluation Form (12.7.13)